

能美市古墳マップ



手取川

古墳、
見にいっさあ



古墳の出土品は、
能美ふるさと
ミュージアムで
見ることが
できますよ。



能美市には、秋常山古墳群をはじめ、見学できる古墳がた〜さんあるぞあ。めざせ！能美市の古墳全制覇じゃ!!

- 説明板
- ↑ 登り口
- のみバス
- 小松バス
- 北鉄バス
- Ⓟ 駐車場

能美市には、130基を越える古墳が見つっています。なかでも平野部に島のように浮かぶ「寺井山」・「和田山」・「末寺山」・「秋常山」・「西山」には60基以上の古墳が集中しており、あわせて「能美古墳群」と呼ばれ、国史跡に指定されています。能美古墳群には、前方後円墳・前方後方墳・円墳・方墳などのさまざまな形、大きさの古墳があり、六鈴鏡、鈴付銅鈿、甲冑、馬具などたいへん貴重な副葬品も多く出土しています。



国指定史跡 能美古墳群

秋常山古墳群

Akitsuneyama Kofun Group National Historic Site

アクセスマップ (広域)



アクセスマップ (詳細)



【交通案内】
 【電車・バス】 小松駅より小松バス乗車(20分)「寺井史跡公園」下車、徒歩30分
 金沢駅より北鉄バス乗車(60分)「寺井史跡公園前」下車、徒歩30分
 のみバス「秋常」下車、徒歩15分
 【自動車】 北陸道 能美根上スマートIC降下、東へ約15分

団体見学のお申し込み、その他お問い合わせ先
 【能美ふるさとミュージアム】
 能美市寺井町を1-1 TEL 0761-58-5250(9:00~17:00/月曜・第3火曜休館)

秋常山古墳群は、前方後円墳の1号墳と方墳の2号墳からなる古墳群です。古墳とは、今から約1600年前の古墳時代に造られた、各地を治めていた首長たちのお墓です。

1号墳は全長約140mの前方後円墳で、石川県最大、北陸でも最大級の古墳です。造られた時期は4世紀後半頃と考えられます。
 2号墳は一辺約30mの方墳で、埴輪やさまざまな副葬品が出土しています。造られた時期は5世紀半ば頃と考えられます。

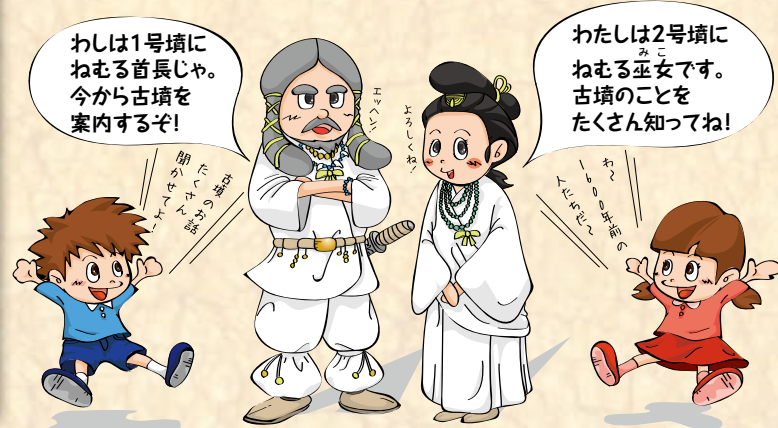
秋常山古墳群は加賀の古墳時代を知るうえで重要な遺跡として、平成11(1999)年、国史跡に指定され、平成25(2013)年には、寺井山・和田山・末寺山・西山の各古墳群とともに一体的な「国指定史跡 能美古墳群」となりました。



1号墳の墓石



2号墳の埴輪



秋常山2号墳

Akitsuheyama No. 2 Tumulus

秋常山2号墳は、東西約32.5m、南北約27m、高さは東側で約4.8m、西側で約2.8mの方墳です。墳頂部の周りには円筒埴輪と朝顔形埴輪が並べられていたと推定されます。墳丘の西裾からは、鉄製の鉋、鑿、鉄斧や砥石などの工具類がまとめて出土しており、祭祀の跡と考えられます。また、埋葬施設の発掘調査も行われ、さまざまな副葬品が見つっています。

造られた時期は、埴輪や副葬品から5世紀半ば頃と考えられます。



西裾から出土した工具類

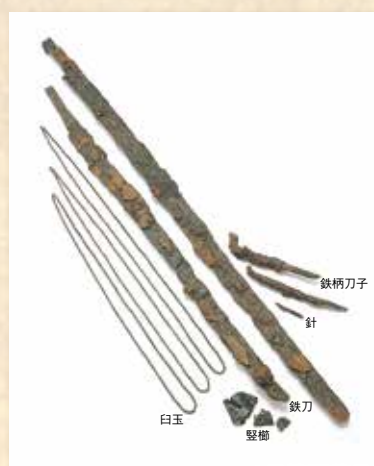


出土した埴輪

埋葬施設は、「粘土槨」と呼ばれる種類で、墳丘の中央に長さ3.3m以上、幅2.5mの四角い穴を掘り、中心部をさらに掘り下げて木棺を設置し、粘土でおおっていました。木棺は長さ2.6m、幅65~70cm、高さ60cm程と想定され、北側に頭を置いていたと考えられます。副葬品は頭側に刀子・豎櫛・滑石製白玉・針がまとめて置かれ、足の両側には鉄刀が1本ずつ置かれていました。



埋葬施設の発掘調査



2号墳副葬品

わたしは、副葬品や棺の大きさから女性の可能性が考えられています。また、古墳のかたちや埴輪などの出土遺物から、お祭りなどで活躍した姿が想像されています。1号墳の隣に古墳を造っていることも、1号墳の首長と関わりがあったことを示しています。



秋常山1号墳

Akitsuheyama No. 1 Tumulus

秋常山1号墳は全長約140m、後円部最大径約110m、高さ約20m、前方部長約45mを測る3段築成の前方後円墳です。その規模は石川県最大、北陸地方でも最大級となります。

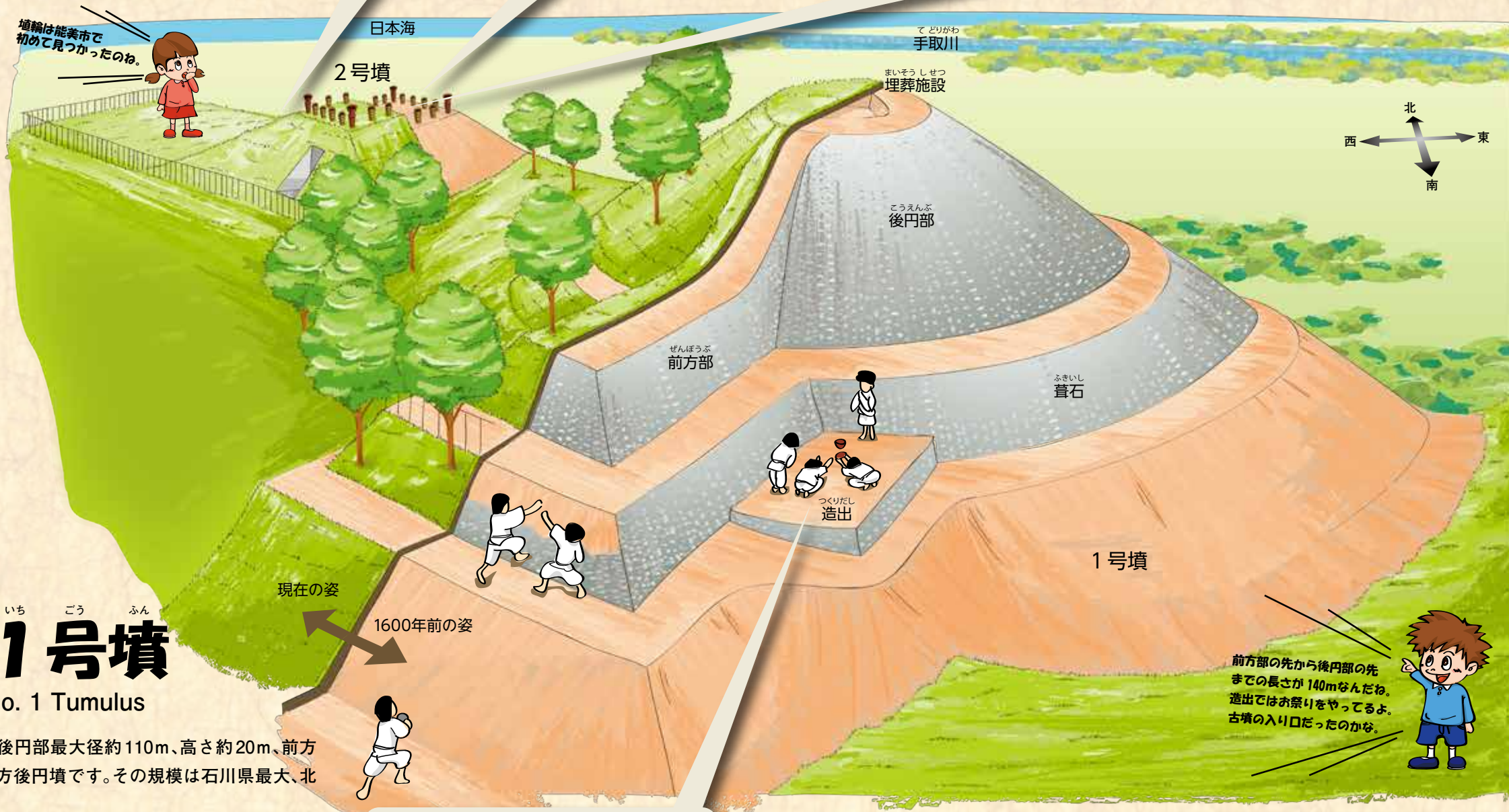
古墳を造るにあたっては、もともとあった自然の丘陵を削り出しておおよその形をととのえ、丘陵が低い東側を中心に土を盛っています。また、上から1段目と2段目の墳丘斜面には手取川の河原石を利用した「葺石」を並べています。

東側の後円部と前方部が接続する場所には「造出」と呼ばれる平坦な高まりがあったと想定され、赤く塗った小型の土師器高杯が出土しています。埋葬施設は、後円部の墳頂にあり、日本海まで見渡せる眺めの良い場所を選んであります。

造られた時期は、古墳の形や出土した土器から4世紀後半頃と考えられます。



1号墳から出土した土師器高杯



1号墳は北陸最大級、日本海側でも4番目の大きさの巨大古墳じゃ。わしは1600年前、当時、政治の中心地であったヤマトの王とつながり、能美の地で大きな力をもっていたんじゃ。埋葬施設は保存のため発掘はしてらんが、電気探査などで位置や大きさがだいたいわかってるぞ。

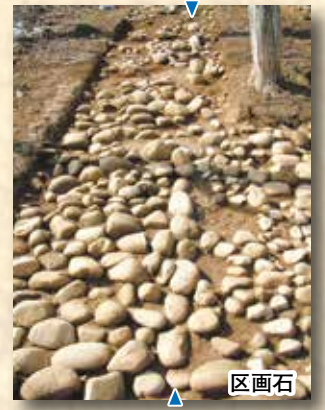


前方部の先から後円部の先までの長さが140mなんだね。造出ではお祭りをやってるよ。古墳の入り口だったのかな。

1号墳では、上から1・2段目の後円部、前方部斜面上に「葺石」と呼ばれる河原石を並べています。葺石によって、墳丘斜面の土流出が防止されるとともに、古墳全体が石で覆われて白く輝く飾りとしての効果もあったと考えられます。河原石は古墳の北側を流れる手取川から採取したもので、総数約40万個、総重量約660tの石が運ばれたと推定されます。葺き方にも工夫が見られ、裾には大きな石を置き、斜面には作業範囲を区分するために「区画石」と呼ばれる大型の石を縦に並べています。



葺石の発掘調査



区画石